



《盛会だった新年会 報告》

～愉快だった小屋さんの講演～

日時：1月31日（土）午後3：00～

会場：桜はなび

金沢龍馬會の新年会は金沢市内の「桜はなび」にて開催。雪が降る中を21名の男女会員が参加、大いに飲み語り楽しいひと時を過ごしました。

中川会長からは「会員講話を中心に互いに切磋琢磨して目標会員50名をメドに頑張りましょう」とのメッセージが寄せられました。

このあと、早速NHK金沢ビデオカメラクラブ副会長でもある小屋忠男氏から「小さな出逢いを大切に」のテーマでお話しして頂きました。

76歳の小屋さんは、NHK大河ドラマ「竜馬がゆく」の回顧、NHK金沢放送局勤務時代のエピソードなどを話されました。

会員の関心はやはり龍馬。明治百周年を記念して作られたという「竜馬がゆく」の配役やその裏話などに興味津々。昭和43年、1968年1月から開始された白黒大河ドラマ「竜馬がゆく」は映画俳優「市川右太衛門」の息子、北大路欣也が主演。あのソフトバンクモバイル「ホワイト家族」のCMでお父さん犬の、あの声優さんが竜馬役と聞いた会員はふ～ん。「おりょう」には浅丘るり子、乙女ネイサンは「水谷良重」。お登勢は「森光子」、お田鶴役は三田佳子、高橋英樹が「武市半平太」に顔く会員もおられました。

この「竜馬がゆく」の現存する映像は第16話「脱藩」のみ。当時は2インチVTRが非常に大型で高価だった為にテープは放送終了後に消去されて他の番組に利用されていました。この第16話はNHK金沢放送局玄関に入って左にあるパソコンで「竜馬がゆく」と検索されれば自由に見られる筈です、とのお話でした。

このあと山野金沢市長も御父上の初七日にもかかわらずご挨拶を頂き、紐野県議、不破県議も龍馬會会員としてご出席いただき温かい激励の言葉



をいただき感謝です。

そして金沢龍馬會のこれからの発展を祈って玉井さんが高らかに乾杯して懇親会に移りました。

21名全員の簡単な自己紹介で更に盛り上がり各会員とグラスを交わし、日頃の活動の話などに話の花を咲かせました。楽しいひと時はあっという間に時は過ぎ最後は周藤さんのユニークな中締めで楽しい宴は無事に終了しました。

《総会》

日時：6月13日（土） 15：00～18：00

場所：桜はなび

講演：勝海舟 玄孫 勝芳邦氏（交渉中）

懇親会：16：00～

費用：参加費¥3,000円、年会費¥3,000円

【会員のつぶやき】

“龍馬との出会いと思い”

蛭子政喜



私の龍馬との出会いは小学生の時に読んだ勝海舟の小説を読んだ時が初めてです。

その中で登場していたと記憶していますが、その後司馬遼太郎の小説「竜馬がゆく」を中学時代に読んで明治維新の歴史の流れに大きな影響力を与えた人物として記憶し感銘を受け好きになった人物であります。

会社人として転勤で高知支店勤務になった時に感じた事は地元では大変な人気者であり、現在の高知県の歴史の大きな観光資源でもあります。

特に高知開催の全国龍馬交流会はその中心と言えるでしょう。

また当時、龍馬の話がきっかけで地元の多くの人々との人脈ができ、それがビジネス発展したことも多々ありました。近年ではNHKの龍馬伝で魅力を大いに再認識しました。

私の「龍馬の魅力」としている事は、①柔軟な発想力②ビジョンの形成力③人との繋がりを大切に、であり、ビジネスを進めるうえにも大いに役立ちました。今後も龍馬會を通じて多くの人々と出会えることを大切にして人間関係と自己研鑽を形成して行きたいと考えております。

まるわかり「龍馬入門講座」③

これは2010年NHKテレビで放映された大河ドラマ「龍馬伝」が始まる前、坂本龍馬を紹介する為長崎国際観光コンベンション協会が作ったパワーポイントです。今回連載に際し吉田が若干編集しました。(本掲載は金沢龍馬会内部のみです)

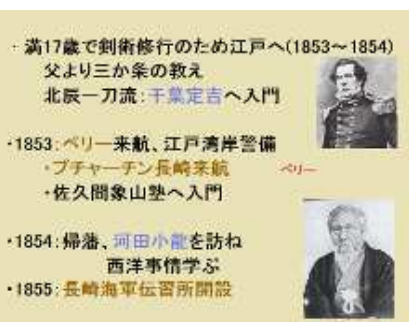
⑨満17歳で北辰一刀流：千葉周作の実弟の定吉の道場へ入門します。

はじめての江戸行きに関して、父：八平は

- ① 孝を忘れず修行に専念
- ② 諸道具に心移りせず浪費するな
- ③ 色香に溺れて国家の大事を忘れるな。

この三か条の教えを龍馬に与えます。

江戸で龍馬を待っていたのは「幕末」という時代の幕開けとなる未曾有の大事件でした。



剣術修行を始めてもまもなく、嘉永6年ペリーが黒船でやってきます。幕府は湾岸警備を土佐藩らに命じ、龍馬も警備と訓練の日々を送ります。龍馬も攘夷青年となっていきます。国許への手紙に「戦争になった場合は異人の首を取って帰国する」などと書いています。

長崎にはロシアのプチャーチンがやってきます。龍馬は、その年の12月に佐久間象山の私塾に入門して西洋砲術を学びます。

修業期限が過ぎ、土佐へ帰った龍馬は、河田小龍を訪ね海外事情を教えられます。小龍は長崎へ遊学したり藩命で薩摩の反射炉見学し帰国した

ジョン万次郎から海外知識を得ていた絵師でした。

「如何トモシテ一艘の外船ヲ買求メ、同志ノ者ヲ募リ之に附乗セシメ、東西往来の旅客官私



ノ荷物ヲ運搬シ以テ通便ヲ要スルヲ商用トシ船中ノ入費ヲ賄ヒ海上ニ練習スレハ、航海ノ一端モ心

得ベキ小口モ立ベキヤ」、このときすでに「亀山社」の構想を小龍から龍馬は聞いております。

小龍は長崎で蘭学を学び、木下逸雲の門をたたき、亀山焼の再興に協力しています。そのころ長崎では、オランダの後押しで幕府の海軍伝習所が開設されていました。

「続く」(記：吉田信夫)

《越前・富山龍馬会講演会 報告》

2月8日(日)福井市で越前龍馬会講演会があり京都龍馬会の「堤 宗男氏」による「龍馬の手紙を読む」講演がありました。

2月14日(土)富山市で富山龍馬会講演会があり岩崎義郎氏による「福井藩と龍馬(拳藩上洛計画をめぐる)」の講演がありました。

同時に北陸三県の各龍馬会の交流がはかられました。両龍馬会様ありがとうございました。

●年会費納入のお願い

**27年4月から来年3月迄の年会費：
¥3,000**

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No 00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです。

【新入会員】

90 西 三也

【編集後記】

皆さま、新年会も無事に終わり、さあ、今年も心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第3号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。これからも皆さまのご指導ご鞭撻をいただきながら楽しい会報作りを目指したいと思っています。

(記：中田俊郎)

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会長：中川可能作

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.yomakai?sk=wall&filter=2>

